

浜岡原子力発電所2号機 窒素補給用配管外面の腐食について

平成 20 年 3 月 25 日

号機	2号機（定期点検中） ：沸騰水型、定格電気出力84万キロワット
状況	<p>当社は、平成19年3月に確認された3・4号機窒素補給用配管外面の腐食事象の水平展開として、同年4月から、技術基準(※1)への適合が要求される屋外設備について、腐食発生状況の確認を行い、腐食が確認された部位については腐食箇所の肉厚を測定するなどの点検を実施しています。(参考資料参照)</p> <p>上記点検の一環として、2号機窒素補給用配管(※2)を点検したところ、外表面の一部に腐食が認められ、このため、本日(3月25日)、当該腐食箇所の肉厚測定を実施しました。</p> <p>測定の結果、技術基準上の必要厚さ(2.4mm)を下回っている部位が1箇所(1.2mm)あることを確認しました。</p> <p>なお、2号機は定期点検のため停止中であり、当該配管は現在使用していません。</p>
原因	配管の肉厚が減少した原因は、屋外環境下での外面からの腐食によるものです。
今後の予定	当該配管を取り替えます。
放射能の影響	本事象による外部への放射能の影響はありません。
お知らせ基準	「表2-9(配管検査において、配管の肉厚が必要最小厚さを下回っていることを確認したとき)」に該当します。

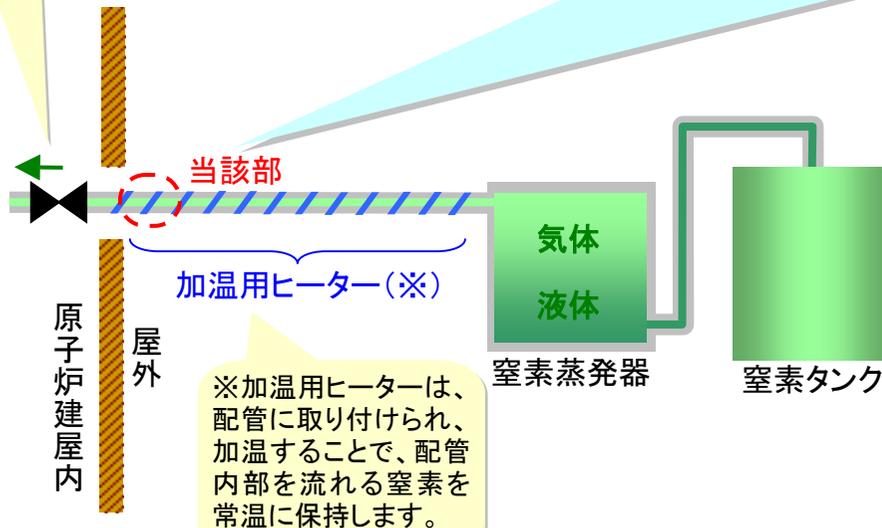
※1 技術基準は、電気事業法に基づき、電気工作物の設計製造および維持運用されるべき水準を定めたものです。

※2 窒素補給用配管は、原子炉格納容器内(運転中は窒素ガスで置換)に設置されている主蒸気隔離弁や主蒸気逃がし安全弁の作動用窒素ガスを補給する配管です。

以上

浜岡2号機 窒素補給用配管で確認された腐食について

原子炉格納容器内の逃がし安全弁や主蒸気隔離弁の作動用窒素ガスを補給します。



逃がし安全弁は、建屋内の窒素ポンペに蓄えられた窒素で作動するため、仮に窒素の補給が停止した場合でも、逃がし安全弁を動作させることができます。

また、主蒸気隔離弁へ供給される窒素のバックアップとして、計装用の圧縮空気が供給可能となっています。

当該配管全景(保温材撤去後)



当該部(錆除去後)



腐食が確認された範囲の一部で、必要肉厚(2.4mm)を下回っている部位(1.2mm)を確認しました。

◆配管仕様

外径:約6cm 肉厚:約5.5mm 材質:炭素鋼

◆腐食部の長さ

約5cm